

みどりとひと



No.127 みどりの新聞 平成16年3月25日 発行

みどりと散歩道

「みどり」と散歩道……武蔵野台地に位置する杉並は、都内で最も自然環境に恵まれた地域のひとつです。みどり豊かな井草森公園、蚕糸の森公園や和田堀公園などをはじめ、水源に親しめる善福寺公園や妙正寺公園、神田川沿いの散歩道、さらに玉川上水の名残を満喫できる遊歩道など……みどりと自然溢れる散歩コースがいたるところにあります。日頃なげなく歩いていてコースから一歩脇道にぶらりと入ってみると、由緒ある大宮八幡宮や井草八幡宮など、寺院では今川氏ゆかりの観音寺や妙法寺など数多くあります……現在は公園として公開されている大田黒邸など、一息いれる場所としては最高です。

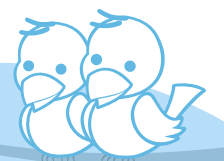
今まで気がつかなかった町の小さな歴史を、記念碑などによって知るなど散歩がより楽しいものになるでしょう。町並みの堀越しに庭木が枝をのぞかせ……春には萌葱色^{もえぎ}の新芽や梅・桜などの花々が……夏には暑さをやわらげる大木の葉が爽やかな木陰を……秋には色鮮やかな紅葉が……四季の変化を実感させてくれます。

恵まれた「みどり」を大切に守り育てようとスタートした「みどりのボランティア杉並」も早いもので2年が経過、幾つかのグループに分れて活動しています。さらに活動の輪を広げようと新しい仲間参加を呼びかけています。

散歩を楽しみながら「みどりの環境」を大切に守り育てるボランティアに出会いましたら、気軽に声をかけてください。



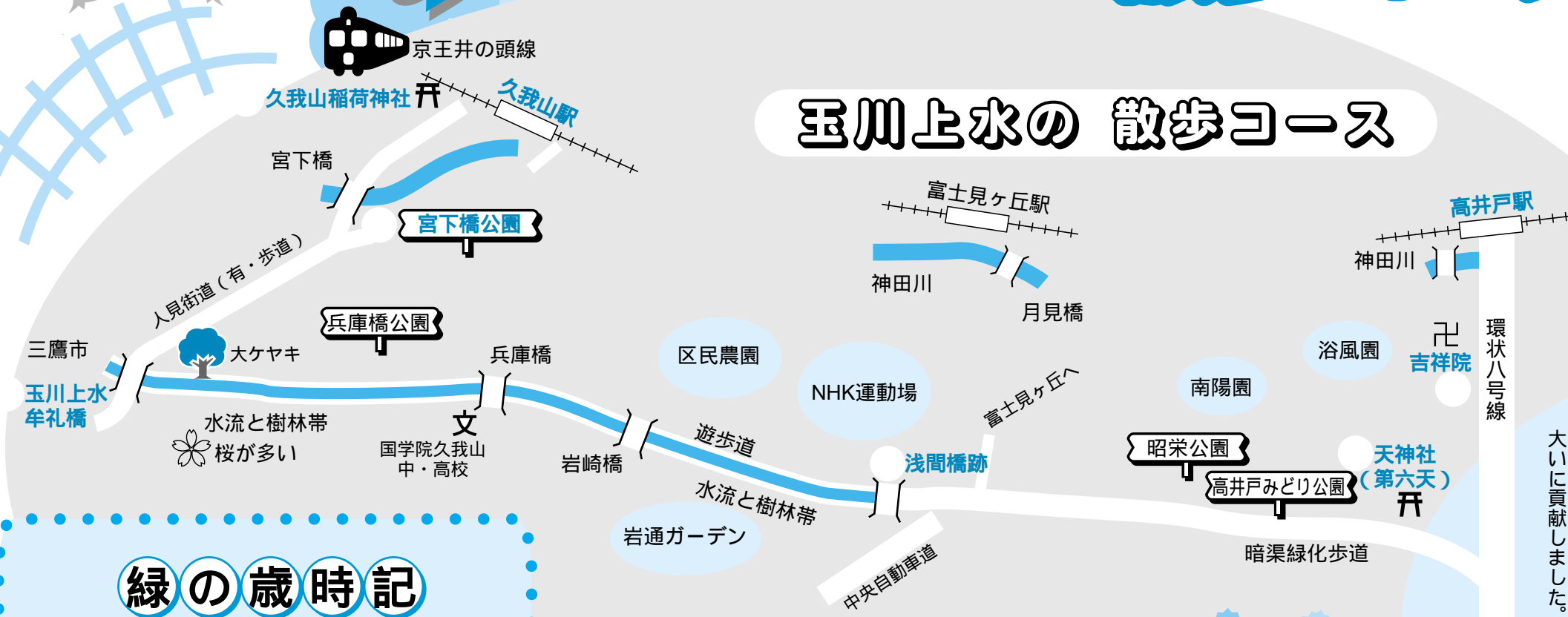
みどり豊かな散歩コース紹介



体調に応じた運動は生活習慣病の予防の第一歩。商店街でのウインドー・ショッピング散歩も結構ですが、閑静な住宅街の「みどり」をたどりながら「みどり豊かな空間」での散歩を楽しんでみませんか。せつかく歩くのなら、植物、史跡、石造物など、何か関心をもって歩かれると楽しいひと時となると思います。

皆さんも、お気に入りの散歩コースをお持ちかと思えます。「みどりの散歩」といったテーマでコースをご紹介します。今回は、一例として玉川上水の散歩コースをご紹介します。

玉川上水の散歩コース



この散歩コースは主に玉川上水に沿ったものです。玉川上水は東京都の「歴史環境保全地域」に指定されていて、先ごろ国の史跡にも指定されました。玉川上水は、江戸時代の徳川四代將軍家綱のとき玉川兄弟の努力で承応3年（1654年）羽村町より多摩川を分水し四谷まで通水、江戸の町に飲料水を供給しました。区内では久我山から和泉の地域を通過（区内延長6.2キロメートル）しています。上水の水は江戸市内の給水のみでなく、各地に分水され農地開発に大いに貢献しました。

史跡と玉川上水に沿ったサクラの大木を含む樹林帯と生産緑地の若木や苗木の鑑賞コース

緑の歳時記

ミモザ = マメ科

ミモザと聞くと、「名前は聞いたことはあるが花を見たことがない。」と言う人は多くいることと思います。「アカシア」と聞けば、古いですが「アカシアの雨」という歌を思い出す人も。アカシア属の「ギンヨウアカシア」と「フサアカシア」を『ミモザ』と一般に言っているようです。ギンヨウアカシアも、フサアカシアもオーストラリアが原産です。

春まだ浅い3～4月にかけて枝一杯に小さな花が集まった黄色の球形の花が咲き、その鮮やかさが芝生の庭に良く映えるようで、最近植えるお宅が多くなったようです。ギンヨウアカシアは関西では切り花用に栽培され「ミモザ」と称して華道でよく使われます。

ちなみに「ミモサ (Mimosa)」と言う名前の花はマメ科ですがオジギソウ属の学名で別の花です。オジギソウは7～8月にピンクの花を咲かせます。



花言葉：真実の愛 悲愛 優雅 友情 秘めた愛

コースと歩行タイム

- 出発地：京王井の頭線「久我山駅」
- 約5分
- 久我山稲荷神社（久我山3 - 37）
- 約3分
- 神田川・宮下橋公園（久我山3 - 27）
- 約15分
- 玉川上水 牟礼橋
- （ここから玉川上水沿いを歩く）
- 約20分
- 浅間橋跡
- （ここまで玉川上水の水面を見ることができる）
- 約15分
- 上高井戸第六天神社（高井戸西1 - 7）
- 約15分
- 象頭山遍照寺吉祥院
- （通称高井戸不動・高井戸西1 - 5）
- 約10分
- 到着地：京王井の頭線「高井戸駅」
- 合計タイム 約1時間20分

みどり探訪

みどり再発見
杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。

阿佐谷「けやき屋敷」界限

阿佐谷は浅い谷地で、昔「浅い谷」と呼ばれていたようで、あたり一帯は田んぼと用水だった時代があったようです。JR阿佐ヶ谷駅北側の中杉通りから東に少し入ったところに、その当時からあったと言われるケヤキの大木が風格をただよわせてそびえています。ここは、一般に「けやき屋敷」と呼ばれています。「このケヤキは、屋敷林として母屋の周りに植えられたもので、古いものは樹齢3～400年たつようです。戦災で母屋とともに大半が焼けましたが、周辺にあったケヤキは幸い残りました。長い間には、台風などで枝が落ちるのですが、不思議なことにあまり迷惑がかからないように落ちてくれます。」と所有者の方からうかがいました。中杉通りなど阿佐谷はケヤキの街といった印象がありますが、その原点に触れられる場所だと感じました。



「みどりのボランティア杉並」

ピオトープABC

グループは、区立高円寺東公園を中心に、地域で出た落ち葉を土にかえず活動をしています。

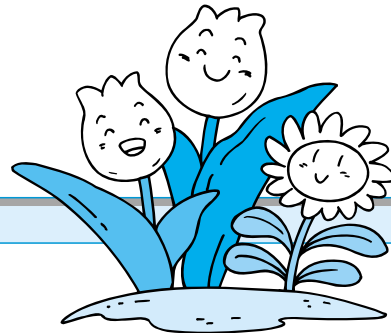
グループの名称は、拠点となる公園入口に、昔、ABCの絵文字があったことから、こども達にABC公園と呼ばれていたのが由来です。

平成14年～平成16年の活動

- 1 平成14年、園内のけやき12本から出る落ち葉を花壇づくりに活用するなど、平成14年度の公園改修に際し、落ち葉溜め設置と利活用を提案しました。
- 2 平成15年秋より、清掃の廃材となっていた落ち葉の一部を使い腐葉土づくりをはじめました。

3 平成16年の1月には、落ち葉のきりかえし作業を地域に呼びかけたところ、三組の子供連れの参加がありました。

「タノシスギル!」という子供の声に、野外活動の拠点がひとつ生まれた気がします。
「コレカラモ、ヤリマショウ!」というおとうさんの声が、公園内に響いた一日でした。



植木応援団

植木応援団は、現役の植木屋さん、主婦、OL、定年退職をされた方など約20人が、杉並区の公園や保育園で、植木の手入れや花壇づくりをして、区のみどりの保全・育成に貢献するグループです。今までの主な活動場所は、上高井戸保育園、成田保育園などの区立保育園約15カ所、井荻公園、井荻公園（通称どんぐり公園）、梅里中央公



園、浜田山西児童遊園、なのはな生活園、柿木図書館などです。

植木応援団メンバーからのひと言

- ・ 緑を守るために、ボランティア活動をしてきて気付いたことを、どんどん提案していきたい。
- ・ 区立保育園の園庭を渡り歩いては、土いじり枝いじりをして、みどりが増え花が咲くのがとても楽しいです。
- ・ 皆と仲良く楽しく活動している内に自分が広がりました。
- ・ 技術は未熟だけれど、公園や保育園の木々に新しい息吹を与えてあげられる喜びや、時にはそこを通る人から「きれいになりましたね」「ご苦労様です」の声に、何事にも換えがたい充実感がえられます。感謝されることの嬉しさを素直に感じています。

植木応援団はこれからも、とにかく「楽しく、仲良く」をモットーに、みんなで力を合わせてボランティア活動をしていきたいと思っています。植木や草花に興味のある方、一緒にボランティア活動してみませんか！お問い合わせはお気軽に区のみどりのボランティア杉並事務局までお電話してください。

植木応援団・小枝のフレディー

「みどりのボランティア募集」という区報の記事が平成13年にでてから、2年以上がたちました。はじめて応募した人たちが集まったのが、その年の秋。「杉並区の木を守りたい」と、ただ1人で悪い、そのまま応募したものですから、まわりの人はまるで知らない初めての人ばかりでした。それから時はたち今や、私の所属するグループ「植木応援団」はわきあいあい。年齢、性別をこえて、まるで学生時代のクラブのような楽しさです。でも、そのなかでちゃんと杉並のみどりを大切にしていこうという信念は守られています。

そして、私たち数人は「植木応援団」の中で「小枝のフレディー」というグループ名をもち、剪定した枝葉を全てゴミとして扱うのではなく、少しでも生活の中にとりいれたいと草木染めなどいろいろとアイデアを考え実行してきました。2年たち、それは私たち数人が思うばかりではなく、多くの人が意識して剪定から発生する枝葉などを活用していこうという事になったようです。腐葉土づくりもこれから広く行われていく事でしょう。落ち葉でつくった土や残った枝の使いみちも、これからの杉並をみどり豊かにする材料になるように活動を広げていきたいと思っています。

みどりのボランティア杉並とは？

「みどりのボランティア杉並」は、区民のボランティア指向の高まりを受け、自らの発想と、地域の生活者の視点から、地域のみどりを守り、増し、育てていく区民ボランティア組織として平成14年3月に発足しました。

みどりのボランティア杉並へは、杉並区在住、在勤、在学の方で、(1)無報酬で活動できる方、(2)みどりに関心を持ち、ボランティア活動に理解と意欲のある方、を区が認定・登録しています。登録の有効期限は2年間で、更新することもできます。活動は、グループでの活動が中心となっています。

このたび発足から2年が経過し、「みどりのボランティア杉並」がどんな活動を行ってきたのかがわかるように活動内容をまとめて掲載します。個人による活動もありますが、ここでは、グループ活動をご紹介します。

この記事をお読みになって「みどりのボランティア杉並」の活動に興味を持たれた方は是非お問い合わせください。

問い合わせ先：みどりのボランティア杉並事務局

杉並区都市整備部公園緑地課みどりの計画係
電話 03(3312)2111 内線 3463~4

桃園川を考える会

みどりのボランティア杉並の会員や、今は緑道となっている「桃園川」の流域に住む人達を中心に、平成14年度から調査研究活動を行っているグループです。初年度は江戸時代からの桃園川の変遷や名前の由来、そして埋め立て下水道幹線化/緑道化のプロセス、中野区側を含めた桃園川緑道やその支流(路地化している)の現状等について調査研究をしました。その結果、杉並区にとって「桃園川」が、大変貴重な「歴史遺産であり環境資産である」ことを確認することができました。

15年度も引き続いて、調査研究を進めていますが、この貴重な環境資産を、旧桃園川を跨ぎ、ないしは平行して形成されている主要商店街(天沼教会通り、阿佐ヶ谷けやきの杜、高円寺パル、中野南通り他)の活性化等に活かすことができないか、ホームページ化による周知などによって図りたいと考えております。16年度以降もこのテーマを継続して活動していく所存です。

前号で、みどりのまち部会長が報告されている環境博覧会すぎなみ2003と同時開催された、神田川サミット(10月11日)の「川じまん大会シンポジウム」では、玉川上水や神田川、善福寺川、妙正寺川などに伍して、「桃園川/桃園川緑道じまん」を発表するとともにパネル展示を行いました。

なお、まちづくりにおける「みどり」には、植物は勿論のこと、昆虫、鳥獣類など「生きもの」の総てと、それを支える「水」「土」「空気」などを含めるべきではないでしょうか。特に杉並区の場合、地表や地下を流れる「水」の問題は大事だと思っています。

グループHP

<http://www02.so-net.ne.jp/frsght/momozono.html>

ピオトープネットワーク

「ピオトープネットワーク」はグループ結成以来、地域参加型による杉並の自然環境の再生を目指して活動をしています。

これまでに、

- ・ 公共施設の空きスペースや学校でのピオトープ設置
- ・ 小学校プールでのヤゴ救出作戦
- ・ 「環境博覧会すぎなみ」でのピオトープの紹介とシンポジウムの開催
- ・ 自然観察会やワークショップの開催

などの活動を行ってきました。

今後は杉並における自然再生のアドバイザーとして、「みどりのボランティア杉並」内のグループだけでなく、より多くの環境グループと連携を図りながらピオトープのネットワークづくりの活動を杉並に広げてゆきたいと考えています。

ピオトープBiotop: Bio(生命)とTopos(場所)を合わせた造語で「生き物のすみ場所」のこと

グループHP <http://www.biotop-net.jp>



ミニピオトープ設置(荻窪地域区民センター)

「みどりのボランティア杉並」



子どもと大人と自然遊び村

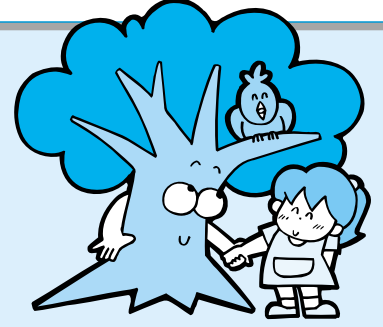
(仮称)糸をつむいで

「子どもと大人と自然を遊びで括って」という発想から、理想的に何かを発見しようとしています。「子どもに自然体験」とか「子どもと遊び」とかの話はそれぞれでは通じるのに、それらを統合した話は中々成り立たないのはなぜでしょうか。また、子どものこの様子、実は大人の問題ということもあります。

今のところ、遊び村のメンバー・他で対談した記事を「紙上会議」紙に投稿するのが遊び村の活動です。紙上でメンバーや読者と情報を共有し、次の段階のための蓄積としています。最初からオープンとし、みんなで考えるのが遊び村のスタイルです。

対談者それぞれの体験の断片を、一連の流れに乗せて読者に伝わるようにするのが、対談形式かも知れません。繊維を紡いで糸とするようなものです。布を織るのはまだ先ですが、ゆっくりでも着実に進めたいと考えます。

注：『住民による自由な紙上会議 杉並区浜田山・新公園づくり』。杉並区役所ほか、区内十数カ所に置いてあります。



私樹木を助ける会

今までの活動

酷暑の夏場はクーラーにまさるオアシスとして慕われた樹木の繁みは、隣家のものであっても、うれしい物です。が、木の葉が舞う秋になると「困るもの」に、突然変わります。世界が力をそぐ京都議定書によるCO₂削減努力にみられるように、エネルギー換算をすればみどりを守り育てる大切さが分かります。

公園の木に比べて数かずの理由で切られつつある私樹木を、今、自然力を知る、住民有志ボランティアで何とかしようと考えています。

これからの予定

区の保護樹木制度のあり方を研究しながら、区民やボランティアが「地域の木」として、所有者任せにせず、みんなで守り育てゆく運動を広げる。川沿いの古木となっている桜を守るため、根元などに落ち葉や腐葉土をあたえ、根を守る活動をする。

[緑の相談窓]を設けて多様な困り事の解決に向けた手助けをする。

このようなことで区民の方々と一緒になって活動をして行きたい。

自然観察の会

自然観察会開催や樹名板付けという活動を通して、区民の皆さんの自然への関心や理解を深め、生活に潤いとゆとりをもたらす、そこにみどりを守っていくという気持ちを育むことを大きな目的としています。この2年間で、私たちは楽しみながら次のような活動をしてきました。



〔自然観察会（野鳥編）〕
三番瀬（'02. 4月）
明治神宮内苑（'03. 2月）
和田堀公園周辺（'03. 3月）
多摩川・是政橋上流（'04. 2月）
郷土博物館周辺（'04. 3月）

〔自然観察会（植物編）〕
井草森公園（'02. 6月、'03. 6月）
旧嵯峨邸跡（'02. 11月）
高尾山（'02. 11月）
和田堀公園周辺（'03. 3月）
国立科学博物館付属自然教育園（'03. 5月）

〔樹名板付け〕
蚕糸の森公園 250枚
（'02. 8月、9月）
善福寺川緑地 132枚
（'03. 6月）

たくさんの方が来て下さいました
今年もいろいろなことを計画しています

環境博覧会すぎなみ2002・2003で、毎年みどりのクイズラリー
杉並わがまちクリーン大作戦で、毎年清掃しながら観察会
すぎなみ環境情報館の屋上緑化への提言作成（'02. 8月）

わくわく畑の会

「へえーこれがオクラの花？へえーナスの花ってきれい！大豆って枝豆からなるの？へえー、わあーワタが畑にできた！へえーコンニャクってお芋からできるの？」と「へえーへえー指数」の高いこ宮前地域にある「荻窪小学校移転予定地」では毎週土曜日の午前中休みを利用して自然体験活動を行っています。

子どもたちがいつも食べているものがどのような成り立ちでできあがっているのか「目で見て」「触って」「感じたり、こんな小さな種や苗から葉が出て、茎が出て花が咲いて、終わったらいつものあの野菜？くだもの？たべるものができた！

そんな不思議な体験を「へえー！」「わあー」といいながらもうすぐ2年目の活動になります。

ここに集まる子どもたちは地域の小学生と幼児がほとんどですが、ときどき中学生もやってきます。みんなここになると気持ちが「ワクワクする！」ということから「わくわく畑の会」と子どもたちが命名、そんなワクワクする子どもたちを見にワクワクしながらやってくる大学生のお姉さんたちやお兄さんたち、おばさん、おじさんも集まっています。



ここでは「どうして？」からいろいろなことが始まります。私たちの活動はいろいろなカタチで荻窪小学校・宮前北児童館・公園緑地課などの行政と他のボランティアの活動との連携をとって支えていただいています。

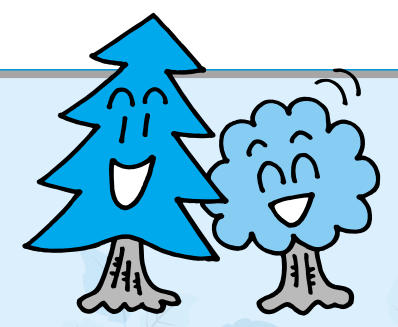
子どもたちの笑顔が一日も早く荻窪小学校の新しい校舎へ繋がるよう、一年ずつを単位に毎週土曜日にやっています。一度のぞきにきてください！

生き物救済クラブ

子どもたちの身近なところで「生き物が息づいている」という気づきをサポートするということを目的として、2年前高井戸第4小学校の土曜学校に提案したのが出発点！その後高四土曜クラブの一つとして、不定期ですが、春にはプールのヤゴを救出して羽化までの過程を観察したり、植物と動物の関係を知る学習会や丸池のかい掘り、冬には鳥たちのためにバードフィーダーを作って、エサの無い季節に鳥たちの救済をしながら観察をしています。

活動は、高井戸第4小学校のPTAが立ち上げた土曜クラブと、ピオトーブネットワークとの連携をとって行っています。

生き物の救済から生息・生育する環境を学び、身近な環境について学ぶ機会にしたいと思うのですが、不定期な活動のせい、なかなか子どもたち自身の気づきとして展開につながっていないのが現状です。



善福寺川さくらの会

月2回、第二日曜日・第四土曜日の午前10時～12時（午前10時～午後3時のときもあり）、メンバー10名が都立善福寺川緑地内で活動を行っています。

活動は、テーマを誰でも提案でき、メンバーの合意が得られれば善福寺川緑地管理所の了承を得た上で実施します。楽しく、無理せず、少しずつ成果を出せれば良いと思っています。

これまで、樹名板付け、花壇づくり（一部は種まきから苗づくり）、腐葉土づくり、梅のせん定、園内草木を用いた草木染め、活動展示会（今年は3月27（土）・28（日）に善福寺川セキレイ橋近くで実施）等を行ってきました。

これからは、これまでの活動に加えて、桜並木の観察と保全、園内樹木のマップづくり等を実施していきたいと考えています。



三つの緑化施策検討の その後の動きをご報告します。

前号(126号)でお知らせした「杉並区みどりのリサイクル検討懇談会」と「杉並区みどりのベルト計画検討懇談会」から、それぞれ検討報告書が区長に提出されました。区は、広報すぎなみ2月11日号でその概要をお知らせするとともに、杉並区公式ホームページにその全文を掲載しました。また、区役所、各図書館、各区民事務所・分室、駅前事務所などで閲覧したほか、区内7ヵ所で説明会を実施し、区民の皆さんから直接、郵便、FAXによりご意見・ご提案を頂戴いたしました。

今後は、頂いたご意見・ご提案をできる限り反映して、区の事業計画を策定します。計画の策定は、平成16年度中を予定しています。

平成15年度 宝くじの助成金で 花壇づくりに取り組んでいる公園など (小学校PTA及び花咲かせ隊の一部)

小学校PTA

- b三谷公園(上井草3-12-10)
- b道灌橋公園(上井草3-14-23)
- b垂糸の森公園南側コミュニティ道路(和田3-50先)他

花咲かせ隊の一部

- b阿佐谷こぶし緑地(阿佐谷北3-36-2)
- b桃園川緑道(阿佐谷南2-30)
- b大宮前公園(宮前3-15-10)
- b西荻窪駅南口(西荻南3-13)
- b妙正寺公園(清水3-21-21)
- bくつかけ公園(清水3-7-18)
- b善福寺美樹園公園(善福寺4-3-29)
- b善福寺一丁目公園(善福寺1-18-7)
- b関根文化公園(上荻4-2-10)
- b西荻北公園(西荻北4-5-14)
- b天沼地藏前公園(天沼1-1-4)
- b天沼もえぎ公園(天沼3-31-5)
- bかっぱ公園(梅里2-12-2)
- b松庵東公園(松庵2-10-9)

専門家に聞く 園芸ワンポイント

緑に関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
くさばな
@3302-9387
(毎週土・日曜日)

「花の咲いた後の球根の管理」



チューリップ、スイセンなど、球根類の花は、傷まないうちに葉を2~3枚残して、思い切って切り取って、切り花として再び楽しみましょう。そうすることにより、残された葉が来年の花のために

球根に養分を送る仕事を始めます。寒さがある間は根も活動をやめていますが、花が終わり暖かくなると共に葉の光合成の力を受けて、根が養分を吸い球根を育て始めますので、このときにカリ分の多いハイポネックスの水溶液を少しずつあげたり、^{りんさん}燐酸分の多い化成肥料を補ったりするのもよいでしょう。

夏に葉が枯れ始めたら、肥料をやめ、丁寧に掘り上げ、

紙袋に入れてあまり乾燥しない所に貯蔵し、11月頃に花壇、プランター、鉢に植え付けます。

スイセン、ヒヤシンス、クロッカス、スノードロップ、スノーフレーク、アネモネなどは植え替えしなくても2~3年咲き続けますが、チューリップは東京の土質では、親の球根が消えてその後に子球根が付いていますが、球根が小さいと花芽がない場合もあります。

ちなみに、チューリップの生産はオランダが世界一で、日本では富山、新潟など北陸地方が適しています。冬、雪の下で暖かく乾燥しない粘土質がよく、生産者は春、花を見てから秋に球根を出荷します。夏秋の花、曼寿沙華も球根ですが、葉が花の咲いた後に出る変った球根植物で、色、形が外国人さんにも好まれています。

指導：塚山公園みどりの相談所 澤地 家治 先生

<編集後記>

- ❖ 新聞編集に携わって早1年。これまで読者の方から、様々なご意見・ご指摘を頂きました。中には、「本当に隅々までよくお読みいただいているのだな」と感心するご指摘もあり、自身の不注意、不勉強を恥じるばかりです。(編)
- ❖ 街の樹木も芽をふくらませ、約束の季節を待っているようです。緑が人々に元気を与えてくれる春、活動も忙しくなりそうです。(青)
- ❖ 広報紙による伝達、広報紙の企画の難しさを感じながら、読んでいただける新しい紙面作成にチャレンジしてみました。(芦)
- ❖ 変わらないと思っていた木々の枝えだも、冬芽がいろづき、大地は地温の変化をしのばせてやっぱりやってきました。はるですね。(有)
- ❖ みどりの季節です、お花、新緑、少しでも皆さんのお役に立てば...(森)

みどりの新聞 127号 平成16年3月25日発行
【編集】みどりのボランティア杉並
【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 @3312-2111 内線3464
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>